

【教育目標】英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに



中野だより

令和3年 2月26日 発行 第32号 発行者:中野区立中野中学校

春の訪れ

早いもので今週で2月も終わり、来週から3月となる。
いよいよ本格的な春の訪れである。

春の訪れといえば、中学時代の英語の授業のことが思い
出される。現在完了を学習していた際、英語の先生が、
「“Spring has come.” は“バネ 持って こい”と
いう意味だな！」と古典的ジョークを言ってクラスの失笑
を買ったのである。本当はもちろん「春が来た」である。

今回は春の訪れにちなみ、人の心を温くしてくれる話
をお届けしよう。



「その声は」

「病院まで遠いよ。最期の会話になるかもしれない」「そんなことない。間に合う」と小声で言い争う男女の声が、師走の電車に揺られていた私の耳に入ってきた。聞き耳を立てるつもりはなかったが、切羽詰まった男女のやり取りと内容が気になった。

夫婦と思(おぼ)しき2人は、携帯電話をのぞき込み会話を続けていた。「電話したほうが良いよ」「いや、人の迷惑になる。駅に着いてからでいい」。他の乗客も気になるのか、2人に視線を向けていた。「意識なくても耳は聞こえるって。掛けなさいよ。お義父さん、待っているよ」「電車内だから掛けられないよ」。お互いに感情が高ぶり、少しずつ声が大きくなっていった。携帯電話の向こう側で、息を引き取ろうとしている父親がいて、臨終の場に間に合わない状況にあるということは、その場の誰しもが理解できた。

ためらいながらも席を立ち、2人に近付こうとした時、「電話、掛けたほうがいいですよ」と2人の正面に座っていた女性が声を掛けた。近くにいた乗客も見守りながら頷いている。背中を押されたように男性が電話を掛ける。

「お袋、親父の耳元に携帯電話を置いてくれ」。電車内に声が響く。「親父、親父が一生懸命働いてくれたから、俺たちは腹一杯に飯が食えて、少しもひもじい思いしなかったよ。心配しないでいいから。本当に、本当にありがとう」。静まり返る電車内で嗚咽を懸命に抑える男性。苦情を言う者などいもしなかった。

2人は何度も乗客に頭を下げながら、目的の駅で降りていった。電車内に師走の喧騒と冷気が入り込む。しかし、言葉にはできない胸の温かさを私は感じていた。あの場にいた誰もが、まさに「看護」をしていた。そして誰もが胸の温かさと同様に感じていただろう、「その声は届いている」と。

日本看護協会主催の第10回「忘れられない看護エピソード」で最優秀賞を受賞された「その声は」(齋藤泰臣さん作)より

今、コロナ禍で多くの方がストレスや不安を抱えながら生活をしている。こんな時は、我々には自分の心に宿っている優しさを声にしたり、思いやりを行動に移したりする勇気が求められる。実際そうした言動に支えられ、背中を押され、懸命に生きようとしている人がたくさんいる。しかし、一方では優しさや思いやりに欠けた残念な言動も目立った。感染者や感染者の出た組織への誹謗中傷、医療従事者への差別的発言、間違った正義感を振りかざしたマスク警察などは顕著な例である。本当に怖いのは、ウイルスより人間の方なのかもしれない。そんなことを思っていた矢先、作文の「電話、掛けたほうがいいですよ」という女性の言葉に出会い、自分の考えを改めた。同時に、中野中生もためらうことなく「電話、掛けた方が…」と言える素敵の人に成長して欲しいと思った。

第3回学校評議員会開催

2月19日(金)、本年度第3回目となる学校評議員会が開催されました。学校評議員会は地域住民の学校運営への参画の仕組みとして、平成12年より実施されているものです。今年度は学識経験者や社会教育関係者等7名の方々に評議員を委嘱し、各回の評議員会で学校運営等に関するご意見やご感想をいただきました。以下は今回の評議員会で出されたご意見やご感想です。



- (行事の動画を見て)コロナ禍でも生徒の楽しそうな学校生活の様子が感じられた。生徒が先生方を信頼し、一生懸命学校生活を送っているからこそその表情であると思う。
- 本日、来校するとき、下校する3年生の様子を見た。都立入試直前であっても笑い声が響いていて、安心した。3年生は受験で大変だろうが、ぜひ希望の進路先に進めるよう頑張ってもらいたい。ICTのことでは、GIGAスクール構想の実現に向けて、今年度の取組の様子がよくわかった。タブレット端末の導入に向けて先生方も多忙になると思うが、推進に向けてご尽力をお願いしたい。
- 中野中生の登校の様子を見ることがあるが、どの生徒も交通ルールを守って登校してい

る。登校中、(いい意味で) 会話する様子も見られない。とても清々しく気持ちのいい生徒ばかりである。学校の様子はホームページを見て、知るように努めているが、内容が充実していて、楽しそうな様子が伝わっている。ICTは新しい取組が多いが、社会を生き抜く経験の一つとして活用されることを期待している。

○『指導する立場である講師の先生が、「中野中の生徒はとても素晴らしい」と話してくれた』ということを知って、嬉しく思った。このことが中野中の伝統になっていけるといい。学校に登校できない生徒が多いことは残念である。少しでも減ってくれるような取組を期待している。

○学生インターンシップを引き受けていただき、感謝申し上げたい。中野中での体験をきっかけにして、教職を目指す学生が増えており、来年度は小学校で一職員として働く者もいる。来年度も学生を多く抱えるが、いろいろな経験をさせてあげたいと考えているので、ぜひご協力をお願いしたい。

～令和2年度学校評議員の方々～

星野 新一さん (社会教育関係者③)	泉 敏郎さん (学識経験者②)
月城 美紀さん (社会教育関係者②)	渡島 郁弘さん (学校教育関係者①)
中井 千鶴さん (社会教育関係者①)	斉藤 順子さん (社会教育関係者①)
寺田 牧人さん (保護者代表①)	

○の中の数字は委嘱年数

特別支援教室における指導の充実

2月21日(月)、本校特別支援担当教諭が区立小中学校の特別支援教育コーディネーター担当の先生方31名を対象に特別支援教室における指導の充実に関する実践発表を行いました。前号でもお知らせしました通り、今年度は本校特別支援担当教諭が北部の中学校5校に設置された特別支援教室を巡回し対象生徒への指導を行っています。また、来年度は残りの5校で巡回指導を行うよう準備を進めているところです。

当日は、ユニバーサルデザインや合理的配慮についての説明、今年度の5校での巡回指導の取組及び成果と課題、そして来年度5校の特別支援教室開設に向けての準備等について発表を行いました。



学校保健委員会を実施

2月25日(木)、令和2年度の学校保健委員会を実施しました。

昨年までは、学校保健委員会に保護者の皆様にご参加をいただき、生徒の健康指導等に関するご意見やご感想をいただきましたが、今年はコロナ感染対策として学校医さん及び教職員のみで行いました。

当日は、健康診断結果及び学校保健活動について養護教諭から説明を行い、その後、学校医(耳鼻科)の熊埜御堂先生からアレルギーに関するご講演をしていただきました。詳細については、後日「保健だより」でご報告いたします。



< 表彰 >

「社会を明るくする運動」作文コンテスト

○中野区推進委員会委員長賞

- 1年 寺尾 悠来
- 1年 永瀬 愛桜
- 2年 篠崎 琥多朗

3名の生徒は、3月20日(土)に中野サンプラザで行われる表彰式で表彰されます。おめでとうございます。

1・2年保護者会のご案内

- 1 日時 3月9日(火)14時45分～
- 2 場所 1年：体育館及び各教室
2年：柔剣道場及び各教室
- 3 内容
 - ・1年間の振り返り
 - ・令和3年度の予定等
 - ・学級懇談
 - ・他

卒業式のご案内

- 1 日時 3月19日(金)10時00分
- 2 場所 体育館
- 3 内容 コロナ感染対策を踏まえて規模縮小、時間短縮を行いこれまでの卒業式に準じた内容で実施
- 4 参加者 卒業生とその保護者2名、在校生代表及び教職員
(在校生と来賓の参加はありません)

